

アグリワークポイント



病害虫防除

果樹林産センター 青島



早期摘果について

発芽量が少なく着花量の多い樹から優先して部分全摘果を行い、夏芽を発生させ樹勢の維持・翌年の着果部位確保に努めます。7月中旬から夏芽の発生が徐々に始まります。部分全摘果については梅雨明け前までを目安に実施します。摘果時期が早くなるほど摘果効果が高まります。

「樹冠上部全摘果」

新梢の発生が全く無い着果過多樹では、樹上3分の1程度の強摘果を実施し、夏芽を発生させ樹勢維持を狙います。

「枝別全摘果」

目通りで直径3〜5cm程度の枝を全摘果することで翌年の着果部位の確保を狙います。成木1本あたり3、4か所程度実施します。

「内・裾なり果の摘果」

着果過多樹では、樹冠上部全摘果や枝別全摘果の実施とともに、内・裾なり果の摘果を実施し、小玉果の発生を抑制します。

夏季せん定

新梢の発生が多い樹やせん定が実施できていない園地では、込み合った枝の整理が必要となります。切る枝は被さり枝、下垂枝、枯れ枝が中心となります。切る枝の太さは3cm以内でせん定量は5%以内を目安に、切り過ぎには注意しましょう。

病害虫防除

今月より黒点病の防除を行います。黒点病は、防除後30日を経過するか累積降雨量が250mmになった時点で再防除します。

近年ゴマダラカミキリの被害による樹勢の低下や枯死が増えています。一般的には6月中旬〜7月中旬が成虫発生のピークを迎えるため、6月上中旬に殺虫剤のアクタラ顆粒水溶液2000倍もしくはダントツ水溶液4000倍(前日〜3回)等で予防します。

時期	対象病害虫	薬剤名	倍率	適正使用基準
6月上旬	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	60日 - 2回
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ類 コナカイガラムシ類	アクタラ顆粒水溶液	2,000倍	14日 - 3回